

令和6年度  
県大会発表者  
作品





## 宮城県知事賞

【全国大会】  
【内閣総理大臣賞】

# 「一隅を照らす」

栗原市立栗原南中学校 3年 ケイバージーバ

「一隅を照らす」という言葉を知っていますか？この言葉は、パキスタンとアフガニスタンで35年もの間、病気の人達や貧しい人達のために医療や開拓などの支援活動を行ってきた医師、中村哲さんが好んで使っていた言葉です。

私が中村哲さんのことを知ったのは、小学4年生の頃。「日本人でそんな人がいるなんて……。」「とても勇気のある人だ。」と強い感銘を受けました。

「私も中村さんのようになりたい……。」

「困っている人達を救いたい。」

自分には今、何ができるのか、自分はどう生きていくのかを考えることが多くなりました。

私は、アフガニスタン人です。パキスタンの小学校に入学しましたが、父の仕事の関係で、4年生からは日本で生活しています。

6年前に日本に来たときは、家族みんな日本語が全く話せず、言葉の違いや文化の違いに戸惑いました。

パキスタンの学校では、よく分かっていた勉強が、日本の小学校では、全然ついていくことができず……「日本語が分からないから仕方がないか。」と思う自分と「悔しい。何とか分かるようになりたい。」と思っている自分がいました。

日本語が少し分かるようになり、日本の文化にも慣れてきた頃、始まった中学校生活。

待っていたのは、辛い日々……。テストのためにどれだけ勉強しても分からないことだらけで、負けず嫌いな私は、仲のいい友達にも負けたくなかったので、ストレスが重なり、「もう嫌だ。死んでしまいたい……。」

そう思うことが何度もありました。どうしようもなく泣いたこともあります。

そんな絶望的だった私を助けてくれたのは、友達や先生方でした。周りの人たちが話を聞いてくれたり、おもしろいことを言って笑わせてくれたりして救ってくれました。両親も、いつも応援してくれました。

「私も周りの人を助けてあげられる存在になりたい。」そう思うようになりました。

アフガニスタンには、病院も水もない場所があります。そこで中村さんは、「一隅を照らす」「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やる」といった精神で、医師として、人として多くの苦しむ人達を助けてきたのです。

私の将来の夢は、医師です。現在のアフガニスタン

では、女性が学校に通えるのは小学校までで、女性が教育を受け、就職する機会が奪われています。私の親戚も女性は働いていません。私の母は「自分は勉強できなかったから、ジーバにはさせたい。」と、いつも励ましてくれます。アフガニスタンに住む友達は、「平和な国で学校に行けて、勉強できていいね。」とって毎日泣いています。

日本に来て、辛かったこともありましたが、今は日本で勉強ができてることが本当に幸せです。日本の国籍を取得し、大学に入って自分の夢を実現させたいと思っています。

家族と話すパシュート語、ウルドゥ話、ヒンディー語、アラビア語、英語、日本語。私が話せる言語です。それを自分の特技として生かしていきたいです。医師になって、母国のアフガニスタンで病気の人達や貧しい人達を助けてあげたいです。私が働くことが、アフガニスタンの女性達の希望につながる。そう信じています。

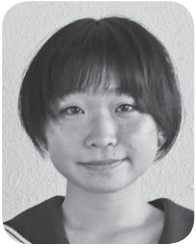
人間は一人では生きていけません。人から支えてもらい、人を支えて生きています。私を支えてくれた友達や先生、そして両親に恩返しをするために、「一隅を照らす」パシュート語で (يو كونج روشانه كرتئ)。まずは、今の自分にできることを、やり続け、やり遂げられる人になりたいです。いつか、日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になるために。

### ● プロフィール ●

好きなことやもの スポーツをすることとゆっくり寝ることが好きです。体を動かすことが大好きなので、スポーツはほぼ全部好きです。

苦手なことやもの 数学がとても苦手です。

将来の夢 将来の夢は、医師になることです。夢を叶えるのは難しいことですが、辛いことがあっても諦めず、私の父のように強い心を持って何事にも臨みたいです。夢を実現させ、苦しむ人達を助けてあげたいです。



## 青少年のための宮城県民会議会長賞

# 光

登米市立東和中学校 3年 佐藤 光

私には、両親がいません。8歳の誕生日に母を病気で亡くし、昨年、父も病気で亡くなりました。母が亡くなったとき、周りの大人たちからは「可哀想に…」という声を、たくさん掛けられました。幼い私にはその言葉の意味が理解できませんでした。なぜなら私には、父と2人の兄、祖父母がいて、親戚の人たちみんなが支えてくれたからです。特に兄たちは、私に寂しい思いをさせないよう、常に側にいてくれました。母の死は確かに悲しかったのですが、自分を「可哀想だ」と思うことはなかったのです。

父は、私が5年生くらいの頃から体調を崩し、徐々に家にいることが増えていきました。ただの体調不良でないことは、すぐに気付きました。あるとき、父の姿が母と重なって見えることがありました。私は、ハッと思い直して「お父さんは大丈夫。」と自分に言い聞かせ、平常心を保ちました。しかし、とうとう、その時はやってきました。余命一週間。苦しそうな呼吸、力のない声。どんどん弱っていく父。毎日、病院から家に帰ると涙が溢れ、体全体で父の死を拒否していました。

父は宣告された一週間よりも少しだけ長く生きました。最後は、ほとんど話すことができない状態でしたが、苦しさから解かれていく様子は思いのほか冷静に受け止めることができました。父のお通夜・葬儀には、沢山の方が来て下さいました。私にはやはり「可哀想に」という言葉が掛けられました。中学生で両親がいないのですから、当然と言えば当然です。しかし、どうしても私は、その言葉を受け入れることができませんでした。それは強がりではなく、確かな根拠がありました。

記憶の中の母は、いつも私の話を楽しそうに聞いてくれ、優しく笑顔の素敵な人でした。病気の辛さは見せず、ぎゅっと抱きしめられたときのあの温かさを今でも覚えています。母が私に残してくれた手紙には、こう書かれてありました。「光ちゃん、寂しい思いをさせてごめんね。生まれてきてくれてありがとう。」

父は入院中、とても苦しそうでしたが、私の不安や恐れを取り除くかのように、決まってこう言うのです。「大丈夫。元気だよ。」と。私が手を握ると、ほとんど入らない力を振り絞って一生懸命握り返してくれました。父は、最後まで頑張って生きようとしてくれたのです。そんな姿と温もりをもらって、「自分は可哀想な子だ」と、どうしても言えるのでしょうか。大切な家

族を失うということは、何事にも代え難い喪失感と絶望感を味わいます。しかし、だからといって残された者が可哀想というわけではありません。私には、父と母に愛された日々の思い出があります。それは、誰が何と言おうと、幸せな記憶です。

日本は、先進国の中でも自殺者数が多く、年間2万人を超える尊い命が亡くなっているそうです。これを知って、私はとてもショックを受けました。たとえばどんな事情があるにせよ、自分で自分の命を絶つなどということは、あってはならないことだと思うからです。私の両親の命は、自分の意志とは関係なく終わりを迎えました。選べるならば、もっと生きていたかったはずです。

今、困難に直面し、死を考えている皆さんに私は伝えたい。苦しいとき、辛いときは逃げてもいい。でも、命は捨てないでください。あなたの命は愛されて誕生し、多くの奇跡を経てここにあるのですから。幸せになるためにあるのですから。両親は、私に「光」という名をくれました。光は「心に希望を持たせるもの」という意味を持ちます。私は、両親からもらった名前に誇りと希望を持って生きていこうと思います。

誰かの光となるために。

### ● プロフィール ●

好きなことやもの 映画鑑賞、本を読むこと、音楽を聞くこと、散歩、ピアノを弾くこと、人と話すこと、人の話を聞くこと、調べること、アーチェリー。

苦手なことやもの ずんだ、牛タン、喧嘩、虫（急に跳ねたり飛ぶやつ）。

将来の夢 自分の言った言葉や行動が誰かの支えとなること。英語を勉強し、国など関係なく交流を深め、様々な世界を見ること。





## 青少年のための宮城県民会議会長賞

### 努力の証

女川町立女川中学校 3年 <sup>たか</sup>高 <sup>はし</sup>橋 <sup>り</sup>莉 <sup>お</sup>生

「努力は必ず報われる。」と、皆さんは思いますか。中学3年になった私は、この言葉に強い反発を覚えしました。「努力しても報われないことのほうがはるかに多い。」と。

柔道部に所属している私は、この夏、全国大会を目指して中総体に臨みました。柔道を始めた頃は、できることが増える楽しさと、試合に勝つと喜んでくれる両親の笑顔がとてもうれしくて、もっともっと強くなりたい、とトレーニングに励んでいました。まさに、努力すればその分結果に表れる、という楽しさに、無我夢中で稽古に明け暮れていました。

そんな状況が一変したのは、中学校に入ってからです。柔道だけでなく、いろいろな場面で周囲の言動に傷付いたり、思うような結果を得られなかったりしたのです。

「莉生って自己中だよな。」

皆が楽しく気持ちよく学校生活を送れるようにと率先して活動した挙句、それは独りよがりだと言われたのです。

また、勝つために必死で体を鍛えていた時には

「すげえ筋肉。そんなに筋肉付けてどうすんの。」

どちらも過去に言われた言葉で、今の私をバカにする人はいません。しかし、私は、努力しても勝てなくなる現実と、過去のことに囚われて、自信をなくし、最後の中総体が近づくのを怖がっていました。

スポ少でコーチをしている父からアドバイスを受けても

「分かってるし！」

努力している自分に、「もっと頑張れ」と言われているような気がして、素直に聞くことができませんでした。

練習に集中できない日々がしばらく続いたある日、見かねた父が練習を早めに切り上げ、いつもの厳しさとは違う、優しい声で聞いてきました。

「どうして落ち込んでいるんだ。」

思いがあふれ、これまで抱えていた自分の中の苦しみや痛み、不安をぶつけていました。

「なぜ努力しても報われないことばかりなの。どうして必死に練習しているのに負けるの。才能の違い？ だったら努力しても無駄じゃん。なんで人の努力を笑うやつがいるの。」

私が吐き出す言葉を、父と、そばにいた母は、静かに聞いてくれました。私の話が終わると、両親が言いました。

「たとえ結果が出なくても、学んだことがあるはずだ。努力は絶対に無駄にはならない。勝敗が全てではないよ。」

「努力は誰かに見てもらうためにするものではないし、誰かの努力をバカにする人は、その人と同じ土俵に立っていないんだから。」

私は両親の言葉を聞いてハッとしました。

結果こそが、努力の証になる。結果が出なければ意味がない、と思い、これまで自分がしてきた努力を、結果や他者から否定されたように感じていた私に、自信と勇気を与えてくれる言葉でした。私は一人ではない。一人で頑張ってきたのではない。こうして応援してもらえることも、自分が努力してきた証だと気付くことができました。

中総体では、これまで怖気づいていた自分が一度も顔を出すことなく、勝ち進んでいきました。結果は、団体戦第2位で東北大会出場。個人戦では、全国大会出場を果たしました。努力の結果ではあるかもしれませんが、私一人で成し遂げた結果ではありません。

本来三人で組むところを、二人で戦い抜いた団体戦。決勝で大将に敗れた私に、「大丈夫」と優しく背中をさすってくれた仲間の思いも、私の後押しとなりました。仲間、先生、監督、両親。自分の努力を支えてくれた周りの人の存在があってこそその結果だと、心の底から、感謝しています。

皆さんも、時として壁にぶつかり、「自分には無理」と決めつけたり、周りをうらやんだりすることはありませんか。そんな時は、簡単に諦めたり他者の言葉に一喜一憂したりするのではなく、自分のことを思ってくれる人や同じ土俵で頑張る仲間を思い出してください。きっと、皆さんが壁を乗り越える力となってくれるはずですよ。私もこれからは、自分と同じように悩んでいる人がいたら、その人が顔を上げて前に進めるように力になりたいと思います。

「あなたがしてきた努力は間違っていない。結果ではなく、努力したこと自体に価値がある。」と。

#### ● プロフィール ●

好きなことやもの 絵を描くこと、トレーニングをすること、ダンスを踊ること、推し活。

苦手なことやもの 勉強すること。

将来の夢 舞台でミュージカルをしたい（舞台俳優）。



## 優良賞

### 前進

富谷市立富谷第二中学校 3年 <sup>やす</sup>安 <sup>だ</sup>田 <sup>とも</sup>朋 <sup>か</sup>夏

「現状維持は後退である。」

中学生になり、多くの偉人が残したこの言葉に出会う機会が増えました。挑戦しろ、努力しろと言われていたようで、正直、私の心をざらつかせるだけの言葉でした。しかし、ある経験を通して、真の意味を知ったのです。皆さんは、人はなぜ挑戦し続けると思いますか。

今年の春、学校から帰宅した私は一通の封筒を手にし、呆然と立ち尽くしていました。封筒の中身には「落選」の文字。富谷市主催の台湾研修に私は落ちてしまったのです。昨年まではコロナ禍で開催自体が見送られ、ようやく訪れたチャンスです。家族からの応援もあり、初めての海外で多くのことを吸収したいと夢が膨らんでいました。抽選に漏れたのは誰のせいでもなく、運がなかっただけ。そう自分に何度も何度も言い聞かせても、勇気を出して挑戦した事の全てが無駄になったような気がして、心に空いた穴を埋められずにいました。と同時にこんな苦しい思いをするくらいなら、と、挑戦することが怖くなっていました。

しかし、そんな私の背中を押してくれたのが母でした。

「せっかく一歩踏み出そうとしたんだから、その気持ちを形にしたら？」

と、蔵王での5泊6日の宿泊キャンプへの参加を勧めてくれました。海外でもなく、英語や異文化を学ぶ訳ではないけれど、自然の中で5泊もできるということに魅力を感じ、何より中2の夏をこのまま挑戦せずに終わるのは嫌だという一心で応募することにしました。

無事に抽選が通り、小4から中3までの初めて会う人達と共に登山や野外炊飯等様々な活動に取り組みました。その中で私は自分を見つめ直す機会を得ました。登山でのことです。道は険しく自分のことだけでも必死でした。ところが、同じ班の小学生の足が途中で止まりかけたのです。疲れて動けなくなっても最後まで自力で歩きたいという、その子に寄り添い、励まし、そして登り終えた時見た雄大な景色と、その子の笑顔…。仲間と成し遂げることの素晴らしさを再確認した瞬間でした。

私はこの経験から、挑戦したことは結果に関わらず、自分の糧になるのだということに気がつきました。台湾に行こうとしなければ蔵王のキャンプへ行こうとすることもありませんでした。一つの挑戦が次の挑戦を生み、私に新たな世界を見せてくれたのです。

私は今まで自分をよりよくする種は、どこにあるのだろうと考えていました。でも、それはすでに私の中にあって、日常生活の中にあるチャンスを見過ごすか、勇気を出して一歩踏み出すかによって変わっていくのだと思うのです。生きていくことは上手くいくことばかりではなく、傷つくことも確かにあります。しかし、挑戦したことは決して無駄ではなく、ちゃんと今の自分を作ってくれている、そう確信しています。

私は何事にも積極的に取り組む人になりたいという思いから、生徒会役員の一員として仲間達と共によい学校を創っていくために邁進しています。あの登山の時のように、同じ目標に向かって議論できる仲間がいる幸せを感じながら、二中学生のためになることを追い求めていきます。

「現状維持は後退である。」を心の糧として、どんな場所でも失敗を恐れず、自分らしく挑戦し続けていきたいです。新たな世界へ前進し続けるために。

#### ● プロフィール ●

好きなことやもの	本を読んだり映画を見たりすることが好きです。特に感動するお話は心が動かされるので好きです。
苦手なことやもの	長距離走が苦手です。体力がなく、すぐ疲れてしまいます。
将来の夢	見た人の心を動かせるような物語を書く人になりたいです。



## 優良賞

# 転んで見つけた温かさ

仙台市立高砂中学校 3年 庄 司 和 生

私が自転車で転んでしまったのは、寒くて暗い、冬の下校中のことでした。足に鋭い痛みが走り、自転車を漕ぐことができなくなってしまったので、痛む足を引きずるようにしながら、自転車を押して帰りました。

そして次の日の朝、足の痛みで目が覚めた私は、足が腫れ、まともに歩くこともできなくなっていました。母に支えられながら病院へ行き、医師からはこんな事を言われました。「靭帯が伸びているので、足を固定しておきましょうか。松葉杖での生活になりますね。」私はサポーターくらいで済むだろうと思っていたため、この言葉に衝撃を受けました。

そんな衝撃とともに始まった松葉杖生活。登下校は車になり、部活動には行けなくなりました。寒い中の自転車通学や、私の苦手なランニングもしなくてよくなり、松葉杖は大変かと思っていたけれど意外と楽な面もあるかもしれない、などと最初のうちはそう思っていました。

しかし、松葉杖生活が始まってから少しした頃、だんだんと辛いことや、大変なことがたくさん見えてきました。例えば、大好きなバレーボールの授業も見学となってしまったこと、雪の中を松葉杖で通ると転びそうになることなど、松葉杖との生活はとにかく不便であることを実感しました。

松葉杖生活にも少し慣れた頃、いつものように階段を上ろうとして松葉杖を片手に持ち替えたところで私は、一人では階段を上れないことに気がつきました。そのときは近くに友達がいなかったのです。いつもなら友達が進んで荷物を持ってきており、私は困ることなく階段を上っていました。その後、すぐに通りかかった友達が助けてくれましたが、私は一人では階段も上れない。松葉杖になった自分の無力感を、このとき突きつけられました。

そんな無力な私がなぜ当たり前のように生活が送れているのだろう。そう思い、私は家や学校での生活を振り返ってみました。すると、私はたくさんの人に助けてもらっていたことに気が付きました。階段を上るときに荷物や松葉杖を持ってくれる友達。毎日学校まで送迎してくれる家族。授業や給食のときにたくさんの工夫をしてくれる先生。いつも元気に声をかけてくれる友達。私の周りの人たちは、私が困り無力感を味わう前に、こんなにたくさんのことをやってくれていたのです。私の松葉杖生活は、周囲の人の温かい心によって支えられていたのです。

そして私は、周りの温かい心を持つ人たちと比べて自分はどうか、と考えました。私は今まで、困っ

ていそうな人がいても、別に助けを求めていないかもしれないし自分には何もできないだろうと思い、動けないことが何度もありました。今思うと、相手がどう思っているかではなく、自分が恥をかきたくないという気持ちの方が大きかったのかもしれませんが、しかし、実際に自分が不便を感じる立場になってみると、自分が困っているときにはもちろん、たとえ困ってなくても、サポートする姿勢を見せてもらえることは心強く、人の心の温かさを感じました。相手の様子を見て気持ちを思いやり、いつでも支える心の準備ができていること。これが温かい心を持つということなのでしょう。

どうやら温かい心は連鎖するもののようです。私も私を助けてくれた人たちのように誰かの役に立ちたいと思うようになりました。困っていそうな友達がいれば相談に乗ったり、友達の仕事を手伝ったりするように心掛けています。まだ緊張することもあるし、断られたらどうしようと思うこともありますが、できるだけ行動するようにしています。

皆さんの周りにも、人知れず困っている人、無力感を味わっている人はいませんか。私たち一人一人ができることは多くはないかもしれませんが、しかし、互いに温かい心を持ち、支え合える社会は素敵だと思います。私はこれからも、温かい心を持ち続けます。階段の前で立ち尽くすような人を少しでも笑顔にできるように。

### ● プロフィール ●

**好きなことやもの**  
私は家でわんぴというしば犬をかっているのですが、とてもかわいく、たくさん遊んでいるので、犬が大好きです。犬だけでなく、猫やハリネズミなどの動物も大好きです。また、読書も好きで、好きな小説は映画も見にしています。

**苦手なことやもの**  
小さい頃、どんぐりの中から大量の幼虫がでてきたことがトラウマで、虫が苦手です。また、運動も苦手で、ランニングなどをすると、すぐにばててしまっていますが適度に運動をし、健康な体づくりをしていきたいです。

**将来の夢**  
まだはっきりとは決まっていませんが、私は本に触れることが好きなので、本屋さんや図書館司書など、本に関わる仕事に就きたいと思っています。





## 優 良 賞

# 共に生きる未来を目指して

名取市立増田中学校 3年 <sup>たか</sup> <sup>はし</sup> <sup>か</sup> <sup>の</sup> <sup>ん</sup>  
高 橋 花 音

なぜ、人間は戦いを好み、悲惨な歴史を繰り返すのでしょうか。戦争で傷ついた人々や瓦礫の山と化した無残な町の姿に、私は心を痛めてきました。私は、与えられた平和な日々幸せを感じながら、どこかで後ろめたさも覚え、何も出来ない無力さを抱えています。戦争が起こる理由として、思想の違い、資源や領土の奪い合い、政治的な問題があるといわれています。命は何物にも代えがいたいと分かっているはずですが、しかし、自分の利益を優先してしまう弱さが人にはあるのでしょうか。

私は、今年の3月に名取市の派遣団の一員として、オーストラリアを訪れました。景色や匂い、肌で感じる空気、全てが新鮮でした。道行く人は、ダウンジャケットを着ていたり、タンクトップを着ていたり、中には、裸足で歩いていたります。皆、人目を気にせず堂々と歩いているし、周りの人も関心を寄せていません。また、現地の学校を見学すると、様々な人種の生徒たちが、仲良く学んでいます。そして、こんなマナーも教えられました。「自分の力で変えることができない容姿については、褒め言葉であっても言うてはならない」。多くの場面で、文化の違いを見つけました。

私は、オーストラリアの自由な雰囲気、解放感だけでなく、人を大切にする温かさも感じました。なぜならば、その人の存在を丸ごと尊重する文化があるからです。これは、命を敬うことにつながっていると思います。

今、日本には、沢山の外国人労働者がいます。日本で様々な人種の人々が共に暮らす未来が近づいているのかもしれませんが、では、そんな未来がきた時に、私たちは互いを尊重し合える生き方ができるのでしょうか。周りを見ると、自分が優位に立ちたいばかりに、他人を悪く言ってみたり、自分とタイプが違う人を仲間外れにしたりする風潮があるように思います。一軍二軍だとか、陽キャ、陰キャといった分け方もあります。それらは全て差別につながっているのではないのでしょうか。

私は、オーストラリアの学生の様子を思い出し、自由で温かな雰囲気のおかげを、教育者であるホストマザーにメールで質問してみました。すると、こう返ってきました。「オーストラリアにおいても、学生たちの問題には人種差別が絡んでいる。だから、いじめについては、とても厳しい規則にしている。」と。また、オーストラリアには、植民地時代、戦争の時代を経て、

国家があらゆる差別を法律で禁止した歴史がありました。

あの自由な雰囲気や温かさは、多民族国家に生きる人々の、意志と努力が築いていったものであり、オーストラリアは互いを認め合いながら、共に生きていく道を選んだのです。私たちもこうありたいと強く思いました。

私たちの世代が、未来の日本を作っていくのです。自分たち次第で、未来が変わるのならば、私たちにもできることがたくさんあるはず。私は、力が湧いてきました。誰もが尊重され、共に生きていける日本を目指していきませんか。互いの存在を尊重すること、自分本位な心の弱さに打ち克つ努力をすることは、中学生の私にもできることです。それぞれが一步踏み出すことで、戦争のない平和な未来につながっていくのではないのでしょうか。今、戦争で苦しんでいる人々が、いつか平和と自由を手に入れたとき、日本で暮らしてみたいと思える国にしていくこと、それが私の夢です。

### ● プロフィール ●

好きなことやもの

クラシックバレエとピアノを弾くことが好きです。最近ベートーヴェンの「悲愴」第3楽章の練習をし、ベートーヴェンの曲の奥深さを楽しんでいます。

苦手なことやもの

おばけと虫が苦手です。怖い話を聞くと、夜眠れなくなってしまいます。また、小さな虫でも近くにいたり叫んでしまうので家族に笑われています。

将来の夢

大切な情報を分かりやすく伝えられるアナウンサーになりたいです。そのために、勉強したり、様々なことにチャレンジしたりして、豊富な知識を身につけたいです。



## 優良賞

# ありのままのうつくしさ

仙台市立台原中学校 3年 佐々木 菜乃望

「妻だけでも、助けてください。」

2024年1月1日。年明けを祝った直後、能登半島で地震が発生しました。

私はその時、盛岡の実家に家族と帰省していました。しかし親は仕事、姉は学校があったため私だけが残り、祖父と従姉妹とこたつに入りみかんを食べていました。特にやることもなく、なんとなくテレビを流しながらうとうととしていた頃、突然、テレビが悲鳴を上げました。「緊急地震速報です。」テレビは能登半島の映像に切り替わり、右往左往する人達を映し出しました。テレビで忙しく点滅する黄色いテロップに黒字で書かれた「にげて」のひらがな3文字。必死に叫ぶアナウンスの声。鳴り続ける警報音。テレビの前で従姉妹が必死に「何してんの！早く逃げて！」と叫んでいました。しかしその叫びは画面の向こう側に届くわけもなく、虚しくリビングに響いていました。

私は一刻も早く情報が欲しくて、スマホを取り出しXを開くと、あるメッセージが飛び込んできました。「石川県某所。能登半島地震で瓦礫の下敷きになっていて身動きが取れません。」そして最後に一文。

「妻だけでも、助けてください。」

衝撃のあまり、体中の器官が一斉に動きをやめたような錯覚に陥りました。「誰か助けて。」「息子が下敷きに。」ものの数分もしないうちにそのような救助要請ツイートは増え、画面に溢れました。被災者の悲痛な叫びに対し、私は、無力感に苛まれ、助かってくれ助かってくれとただただ祈ることしかできませんでした。

その後、時間の経過に伴って、無事救助されたことを伝える投稿や、日本中から様々な支援を受け、感謝をする投稿も増えていきました。仙台に帰ってからそのことを母に話すと、母はこう言いました。

「ああ、でもあの中にフェイクツイートもたくさんあったみたいだよ。」

戦慄しました。私が見たあのツイートもフェイクだったのでしょうか。後で調べて分かったことですが、このようなフェイクツイートで少なくとも消防が2件、県警も同様に複数件出動があったそうです。一体なぜそんなツイートをしたのでしょうか。できたのでしょうか。なぜかと問われればきっと「いいね」数を稼ぐためだったのでしょうか。しかしそのちっぽけな承認欲求で1人2人、もっと多くの人の救助が遅れたのかも知れないのです。

現代の人達は承認欲求に囚われすぎているように感じます。面白がって迷惑行為を行い、稼いだ「いいね。」不必要に自分を着飾り、誇張して得た偽りの「いいね。」そんないいねで得られるものはなんなのでしょうか？簡単

です。そんなものはありません。いいねが欲しいということは承認欲求が満たされていないということ。それは自分自身を認め、愛してあげられていない確たる証拠です。

私はありのままの美しさを知っています。

あなたには、あなたにしか無い個性があります。個性が無い人間などいません。何か一つ、どんなに小さなことでもいいのです。それを見つけて、認めてください。あなた自身を愛してください。それができれば「いいね」なんて要らないと思うのです。

SNSの良さは「いつでもどこにいても自分の状況を気軽に伝えられる」ことでしょう。離れた場所においても、友人の近況を知ることができ、災害時も正しく使えば救助や支援に有効なものとなります。

しかし、フェイクで獲得したいいいねは同じくフェイクでしかありません。自分自身を偽り形を変えて、そうしていくうちに自分がどこにあるのか分からなくなります。だからとても難しいことですが、皆さんに自分の芯を強く持って欲しいと思うのです。それは自己中心的という意味でも我儘という意味でもありません。胸を張れる「自分」を持っているということです。自分のことを認め、愛するという。「ありのまま」の美しさとはそういうことなのだと思います。

私はありのままの美しさを知っています。

だから私は芯を強く持っている人でありたいと努力します。そして、これから先、自分を愛してあげられる人がもっと多くなることを切に願っています。皆さんが二次元のハートマークに囚われず、真の意味で「いいね」と称賛される人でありますように。

### ● プロフィール ●

#### 好きなことやもの

一番好きなことはマンガを読むことと、絵を描くことです。どちらも自分の世界に入って時間も忘れて没頭することができます。自分でストーリーを考えてみたり、「この先どうなるんだろう」「こうじゃないかな？」と世界を広げていく感覚が好きです。

#### 苦手なことやもの

苦手なことは球技です。ボールは自分ではないのでどういう方向に転ぶか分からず、得意ではありません。しかし、そういったところも魅力だと感じているので苦手ではありますが好きです。

#### 将来の夢

将来はまだ具体的な仕事は決めていませんが海外で働きたいと考えています。特に北欧に興味があるのですが、あまり一点に囚われたくないでたくさん世界を旅したいです。





## 優良賞

# 地域の一員として

仙台市立南小泉中学校 3年 庄 子 美 緒

皆さんは知らない地域の方から、「おかえり」と言われたら何と返しますか？

私はときどき、友達とこんな話をします。「家族ではないのに、気軽に『ただいま』って言うっていいのかな？」、「なんかちょっと失礼な気がしない？」友達と答え方を色々考えますが、いつも「どう答えたらいいのか返事に困る」という結論になります。私達は、どうして地域の方から「おかえり」と言われると、返事に困ってしまうのでしょうか？

それは、私達と地域の方との関係が年々薄くなってきているからです。

大きな原因は新型コロナウイルスの流行により、様々な地域行事が中止になったり、規模を縮小しての実施となったりしたことで、地域との交流がほとんどなくなってしまったことにあります。

例えば、南小泉中学校には、「健全育成パレード」というイベントがありました。本校吹奏楽部の演奏に合わせて地域を練り歩き、地域の方と交流するものです。それも現在は行われていません。そのため、多くの南小泉中学校生は自分と地域の人は関係がないと思ってしまうのです。

私は、私達はもっと積極的に地域の方と関わっていくべきだと思います。なぜならば、地域の方と交流することには安心感と新たな視点の発見があり、私達がもっと成長することの基礎となってくれるからです。

去年の運動会の日の下校中、こんなことがありました。地域の方から「今日はみんな帰りが早いね。何かあったの？」と声をかけていただいたのです。私が運動会があったことを伝えると、その方は「私も昔そんなことがあったなあ」と思い出話をし、最後には「帰り道気をつけてね」と見送ってくださいました。私はその出来事をとても嬉しく感じました。その方は、中学生がいつもより早く下校していることに気付き、気に掛けてくださっていたのです。家族以外にも見守ってくれている人がいることで、安心して登下校することができると感じました。

また、私は昨年11月に行われた「若林区民ふるさとまつり」に、警察署と連携して自主的に地域の防犯に関わる団体「アルカス」として参加しました。中学校ごとに分かれているブースで防犯を呼びかけたり、万引き防止ソングに合わせて創作ダンスを踊ったりしました。児童生徒向けの内容が多かったのですが、「どんなことをやっているんだ？」と興味を持ってく

ださった地域の方が多くいらっしゃいました。なかには、「私も南小泉中学校出身なんだよ。応援しているよ」と声を掛けてくださった方もいました。

私はこのふるさとまつりをきっかけに、一気に地域の方との距離が縮まったように思いました。そして、先生方や家族だけでなく、地域の方も私達を応援し協力してくれているのだと気づいたことで、地域の方にも感謝し一緒に何か活動したいという、私にとって新しい視点が生まれました。

私は今、生徒会副会長を務めています。任期終了が迫るなかではありますが、これからの生徒会活動で地域の方とどう関わっていけるのかを探していきたいと思っています。また、後輩達へこの思いを伝えることが、次の執行部の活動が校内だけでなく、地域の方と一緒に活動していく下地になったら嬉しいです。生徒会執行部が校内だけでなく、地域をも盛り上げる組織となれば、部員一人一人も大きく成長できるはずですよ。

人はたくさんの人に支えられ影響し合いながら生きています。中学生も地域の一員であることを自覚し、薄れてしまっている地域との繋がりを、私達が積極的に取り戻すことで、より安心して学校生活を送りながら、広い視野で物事を考え、自分の成長に繋げていきたいです。

そして私はこれからも、温かく暮らしやすい南小泉地域の雰囲気大切にしていきたいと思っています。

### ● プロフィール ●

好きなことやもの 音楽が大好きです。毎日ピアノを練習しています。

苦手なことやもの 全て日本語に翻訳できない英語が苦手です。

将来の夢 考える力、伝える力を育てられるような小学校教師になりたいです。



## 優良賞

# これまでと、これから

大崎市立古川北中学校 3年 堀江龍輝

皆さんにとって、一生に一度は食べてみたい料理は何ですか？私が食べてみたいのは、ラーメン屋さんを作る普通のラーメンです。そんなのいつでも食べられると思う人がいるかもしれませんが、私は今まで一度も外食でラーメンを食べたことがないのです。

私には食物アレルギーがあります。生後二ヶ月で皮膚という皮膚が全てただれ、まるで大やけどをしたような肌。母が、散歩や買い物に私を連れていくと、道行く人が思わず振り返ってみるほどかわいそうな肌をした赤ちゃんだったそうです。

医者の診断は重度の食物アレルギー。卵や牛乳、小麦と次々に食べてはいけな食べ物を指示され、ほかにも植物や動物などに対するアレルギーもあるということが分かりました。アレルギーを引き起こすものをもし間違えて食べさせてしまったら、息子が死んでしまうかもしれないと思うと不安で不安でたまらなかったと母は言います。しかも、ミルクを飲ませてはいけなかったのも、私の母は母自身がアレルギーを除去した食事をとり、必死に母乳を飲ませて私を育てたそうです。

小学校6年間は、毎日母が作った弁当を持って行き、教室の端で一人で食べました。なぜなら、ある日の給食で友達の牛乳が一滴ポタリと落ちて、私の肌が赤く腫れてしまったことがあったからです。みんなと会話できない、同じものを自由に食べられない、給食の時間は寂しかったです。だから、中学生になって、アレルギー対応の給食を作っていただき、みんなと同じ温かいものを食べるのができたときは、とてもうれしかったことを覚えています。

今年の修学旅行。2年生の時から準備をしてきて、中学校で一番楽しみにしていた行事です。でも準備を進める中で、私は心配になりました。それは、自主研修中は自分たちで食事をとらなければいけないからです。

アレルギーのない人にとっては楽しみな外食も、私にとっては一歩間違えれば命に関わる症状が出ることもあるのです。

実際に私は、アレルギー反応の中で最も重いアナフィラキシーを二度起こしたことがあります。そのため、病院で「エピペン」という注射薬を処方されています。これを、お守りとしていつも持ち歩いているのです。普段外食するときは、いつも事前に母が、アレルギー対応のある飲食店を調べ、私の食べられるメ

ニューを選んでくれています。

アレルギーがあるというだけで他の人と同じことができないということは、とても辛いことです。だから私はみんなと同じところで食べるために、必死になって、飲食店について調べました。結局、本番の自主研修では事前に調べた店にたどり着くことはできず、班のみんなには大変迷惑をかけてしまいました。しかし、これまで母任せだった自分のアレルギーと真剣に向き合うことができたように感じました。自分だけでメニューを決められたのも私にとっては大きな一歩です。

私は今アレルギー食品を少しずつ食べて耐性をつける、「食べて治す」という治療をしています。また症状が出たら…と思うと怖くて食べられないものも、まだまだあります。でも頑張っているいろいろなものを食べて少しずつ、少しずつ、自分の「できる」を増やしています。だれにでも苦手なことやできないことがあると思います。でもできないからとあきらめるのではなく、どうすればできるようになるのか考え、行動することで自分の力を伸ばすことができるのではないのでしょうか。

これからの私は、アレルギーのことだけでなく勉強や運動などで、「できない」ことがあっても投げ出さず、自分を伸ばすチャンスと捉え、前向きに取り組んでいきます。自分の可能性を信じて。

### ●プロフィール●

#### 好きなことやもの

漢字が大好きです。難読漢字や旧漢字、当て字など難しければ難しいほど面白く感じます。今は漢字検定1級合格を目指して、勉強を頑張っています。

#### 苦手なことやもの

球技が苦手です。ボールの動きが予測できず、どこに飛んでくるか分からないからです。

#### 将来の夢

私は人と接するのが好きで、誰とでもすぐに打ち解けることができます。そのコミュニケーション能力を活かすため、多くの人と関わりながら働くことができる地方公務員になって、地域に貢献したいと思っています。



## 優良賞

# 「音のない世界」

仙台市立袋原中学校 3年 <sup>すが</sup>菅 <sup>い</sup>井 <sup>み</sup>心 <sup>ゆ</sup>結

音のない世界。目では見えるのに耳では何も感じない。楽しそうな会話も、切ない歌も、驚いている声も。そんな世界を私は想像もしたことがありませんでした。

皆さんは「手話」についてどのような印象を持っていますか。「難しそう」「大変そう」という、マイナスの印象を持っている方が多いのではないのでしょうか。以前の私もそうでした。しかし、あるきっかけが、私の手話への印象を大きく変えました。

家族で旅行をしていたときのことです。列に並んでいると、前にいた聾学校の人たちが、手話で会話していました。修学旅行中らしく指を指したり笑ったりしながら、とても楽しそうにしていました。耳が聞こえないとは思えない、自然なやりとりでした。彼らの楽しそうな様子を見て、「私も手話で話してみたい」と思うようになり、手話の自己紹介を覚えました。

それまではただ漠然と、手話は「難しそう」「大変そう」と思っていました。しかし、実際に調べて使ってみると、挨拶や感情を表すものの他にも、五十音全ての、一文字ごとに手話があって、思った以上にいろいろなことを話せるのだとわかり、表現するのが楽しくなっていました。

そんなあるとき、「手話」を扱ったドラマに出会いました。「音がなくなることは悲しいことかもしれないけど、音のない世界は悲しい世界じゃない。」これは、ろう者の人が、だんだん耳が聞こえなくなる病気で絶望している人に向けた言葉です。私はこの言葉で、自分が少し思い違いをしていることに気づき、はっとさせられました。

もし自分の耳が聞こえなくなったらどんな気持ちになるだろう。きっと怖さと悲しさでいっぱいになってしまう。私は、音が聞こえない世界を「かわいそう」で「悲しい世界」だと思い込んでいました。

たしかに、音が聞こえなくなったら、絶望するかもしれません。しかし、ろう者の人は、音のない世界の中で、手話で気持ちを伝え合いながら生活しています。耳が聞こえない人が生きている世界を、一方的に「悲しい世界」と決めつけるのは、失礼なのではないかと思いました。聴者は恵まれていて、ろう者は恵まれていない。そんな見方をしている人もいることでしょう。しかし、本当にそうでしょうか。オリンピック・パラリンピックが行われたこの夏、ハンデを力に変えて、前向きに生きている姿に、私は感動と勇気をもらいました。他の人にはないハンデを持っていたら、不便かもしれません。しかし、それを乗り越えて、私には到

底できないようなことを成し遂げている方が、世の中にはたくさんいます。恵まれていないと思うことは大きな間違いだと私は思います。

みんなが、自分と向き合いながら、全力で生きています。「聴者とうろう者」「言葉と手話」「私とみんな」のように、誰かと自分を比べたり、定義づけたりする必要は、まったくないのだと気付かされました。

私達が生きる世界では、「音声」「文字」「手話」「点字」など様々な交流の手段が存在しています。自分が使わないからといって、その手段を特別なものだと考えず、コミュニケーションの一つとして捉えていけたらいいと思います。「手話」の世界をのぞいてみると、「難しい」「大変」だけでなく、「楽しい」「面白い」と思える魅力がたくさんありました。また、手話教室や本、インターネットなど、交流できるチャンスも、自分が思っているより身近にあるのだと知りました。

手話を使っている人たちは話す手段が違うだけ。英語を学ぶように手話を学ぶなど、もっと自然に相手と関わり、同じ世界を生きることで、相手との壁がなくなると思います。

私達はこれから沢山のひとと出会い、交流していきます。その中には手話を使う方もいるでしょう。手段が違うから、きっと伝わらない。そんなふうには壁を作らず、自分の気持ちを伝え、相手の思いに耳を傾けていきたいと思います。誰もが区別されることなく幸せに暮らせる未来へ踏み出すために。

### ● プロフィール ●

#### 好きなことやもの

私はドラマや映画を見ることがとても好きです。今回の作文を書くきっかけの1つでもあります。ドラマや映画から自分の知らない世界を知ることができるところが魅力だと思います。

#### 苦手なことやもの

私は英語が苦手です。なぜなら日本語と英語は対極にあると考えているからです。しかし最近自分なりに、勉強して少しずつ苦手意識を克服していけるように努力しています。

#### 将来の夢

たくさんの人を笑顔にできる人になりたいです。人が笑顔になる瞬間はたくさんあります。だから、自分にあった方法を見つけてたくさんの人を笑顔にできるように頑張ります。





## 優良賞

# 自分への挑戦

蔵王町立円田中学校 3年 樋口千智

「前十字靱帯断裂です。」そうお医者さんから告げられたのは今年の3月でした。

私は父の勧めで5歳からスキーを始めました。体全体でポールをなぎ倒しながら、猛スピードで滑るカッコいい選手の姿を実際に見て、衝撃を受けたのです。その時から、アルペンスキーに魅せられてしまったのです。

私の生活は冬が近づくと、スキー優先の時間になります。強化練習、中体連の大会、そしてジュニアオリンピック。中2のこの時もジュニアオリンピックという全国大会の出場を懸けた岩手での大きな大会でした。

大会初日。この日は大雪。パーンも最悪の状況でした。私は29番目の滑りになります。前走の選手のタイムが次々と耳に入ってきます。しかし、この大雪の中、転ぶ人も少なくありません。そして、コースは選手が通過する度に悪化していくのです。私の前にスタートした選手が転倒し、動けない状態でスタッフに運ばれて行く場面を目の当たりにした瞬間、抑えていたものが襲ってきました。波のように押し寄せてくる不安に押しつぶされそうになったのです。それでも、自分を鼓舞し続けました。「落ち着け、何回も経験してきた大会じゃないか、できるよ！がんばれ！」と。しかし、「弱い自分がよわい自分」を励ましたところで何の意味もありませんでした。4ターン目のところで転倒してしまったのです。右足に激痛が走りました。しかし、それよりも、ジュニアオリンピックへの挑戦が終わってしまった「悔しさと心の痛み」の方が何十倍も大きかったのです。

宮城に戻ってきてから専門の病院で検査・治療となりましたが、その時、お医者さんから言われた言葉が「前十字靱帯断裂です」というものでした。それに続けて、「太ももの裏の腱を靱帯に移植するという手術です。完治まで1年かかります」という絶望的な言葉。「あの一瞬でこんな結果になってしまうんだ・・・あの時、変な不安さえ持たなければ・・・」この思いを何にぶつけてよいのか分からず、ただただ自分を責めるだけでした。「手術？移植？」話に心が追いつけないまま、それでも、大きな手術が成功し、入院をしながらのりハビリが続きしました。

待ちに待った2ヶ月ぶりの登校日。「スポーツは暫くできないけれど、その分、勉強に打ち込もう！」気持ちを切り換えて、新たな目標を持った矢先でした。しかし、気持ちと裏腹に松葉杖を離せない体はまだ、

全快というわけではなかったのです。手術の影響で頭痛、発熱が幾度となく私の体を襲ってきました。頑張ろうと思えば思うほど、その症状は重くなるのです。そんなことが続くと、登校する気力もなくなっていました。そして「もう、どうでもいい」そんなことばかり考える毎日になりました。そんな時、同級生の一人がバーベキューに誘ってくれました。楽しいひとときでした。久しぶりに笑ったような気さえしました。残っていた最後の力を振りしぼって久しぶりに登校してみると、移動教室の時、荷物を持ってくれる友達、嫌な顔一つせず私の給食を片づけてくれる友達、たくさんの温かさに触れることができました。家族だってそうでした。両親も祖母も、私に言いたいことはいっぱいあったらうに、いつも笑顔で、私を待ってくれたのです。

手術やりハビリ、そして自分を責めて落ち込む経験は辛いことでしたが、この時間を通して人の温かさ、家族への感謝、そして「もう一度スキーで頑張りたい！やっぱり私はスキーが好き！」という自分の本当の気持ちも再確認できました。高校生になったらまた、大きな目標目指して、アルペンスキーに取り組みたいと思っています。

今度は負けません。試合にも。自分の弱い心にも・・・

### ●プロフィール●

好きなことやもの  
私は、スポーツや筋トレなどで体を動かすことが好きです。その中でも、特にアルペンスキーのスラロームが大好きです。高校でもスキーを頑張りたいと思います。

苦手なことやもの  
私は、ピーマンやゴーヤなど辛い食べ物が苦手です。しかし、スポーツをするためには、このような野菜を摂ることが大事だと思い、最近は自ら進んで食べるようにしています。

将来の夢  
私の将来の夢は教師です。両親が教師をしていることもあり、身近に感じ、やりがいのある仕事ということもわかっていました。そして、いつしか教師になりたいと思うようになりました。



## 優良賞

# 私の羅針盤

気仙沼市立唐桑中学校 3年 堀内 香 奈

「女の子らしくね！」

幼かった私の心に、深く突き刺さっては、時に牙をむく言葉。その言葉によって、女の子らしい服装や見た目に気を遣ったり、将来の職業も女性らしいものでなければならぬそう当たり前と思う自分がいました。

小さい頃は、船に乗る仕事に就くことが夢だった私。祖父も父も漁師であり、年の離れた兄も、内航船に乗る仕事を選びました。そんな家族や、リアス海岸の景観が美しく、自然豊かな「海と生きる」まちで育った私だから、(海の仕事に就きたい) そう自然に思うようになりました。しかし、「女の子らしくね！」という言葉が、いつも私の心の中で邪魔をします。(女の子らしいってどういうこと？女の子だから、父のように遠洋漁業船に乗る仕事は無理？船の船長になりたいなんて言ったら、みんな笑うだろうか……。女子になりたい職業ランキング上位の、パティシエや美容師、そんな仕事に就きたいととりあえず言うておこう……。クラスメイトの女子にも、パティシエや美容師になりたい人は多いし、やっぱり女子らしくていい気がする！) 友人との会話や授業中、職場体験先を選ぶときも、私の物差しの規準は、なぜか「女の子らしいかどうか」が最優先。

しかし、ある日テレビで見たCMが、私の考えを180度変えました。「聞こえてきたのは、男性の声ですか？女性の声ですか？」CMが終わった後も、CMの言葉が、ずっと頭から離れません。「あなたは、無意識に、男女に対する差別や偏見を持っていませんか？」と私自身に訊ねている気がしてなりません。(無意識による男女差別……。私もしている？いや、していない……。) 私の頭の中はどっちともつかない答えでいっぱいになりました。

例えば、私が通う中学校でも、数年前に女子制服のストラックスが導入されました。ふと周りをよく見渡せば、多様性に対応する動きや、ジェンダーレスを尊重する社会が、すぐ身近なところまで浸透していることに気がきます。

「女の子らしくね！」

その言葉に振り回されていた自分が、なんだか馬鹿らしく、世間知らずだったと恥ずかしくなりました。

先日、総合的な学習の時間に、沿岸部や海の調査の目的で、クルーズ船に乗る機会がありました。クラスメイトは、海から見たリアス海岸の美しい景色に夢中でした。しかし、私は一人、船を操縦する女性船長

さんの姿に心惹かれていました。すぐさま操縦室に向かった私は、船に乗りたいという夢を打ち明けました。すると、その女性船長さんは、

「すごい！いいね！」

と私の夢を褒め、仕事に就くために必要な資格や免許について、ていねいに説明してくださいました。女性船長さんがおっしゃった

「自分の信念を持つことが一番大事！」

その一言が、私の心に強く響きました。(誰かの価値感ではなく、自分の価値感で生きる。一人の人間として、どう生きていきたいか。何をしたいか。) 夢への大事な羅針盤をいただきました。

私の夢は、航海士になることです。あなたの夢は何ですか？

### ● プロフィール ●

好きなことやもの 音楽を聴くこと、野球観戦。

苦手なことやもの 理数系の勉強、絵を描くこと。

将来の夢 航海士になること、誰にでも信頼される人になること。



## 優良賞

# 思いやりの心を持って

仙台市立寺岡中学校 3年 <sup>お</sup> <sup>た</sup> <sup>ま</sup> <sup>こ</sup> 大谷真瑚

ある日こんな出来事に遭遇したのです。母の車に乗って、習い事に行く途中に、大渋滞にはまってしまい、まったく身動きの取れない状態になってしまったのです。その後方から複数台の救急車のサイレンがかすかに聞こえてきたのです。母と私は「こんな大渋滞の中、道なんて譲れるはずないよね。」と顔を見合わせて話しました。後方も渋滞していたのでしょうか。救急車はなかなか前に進んできません。何とか道を空けようにも全く動けないのですから何ともすることができません。そうこうしているうちに、前方の車が少し左に車を寄せ始めたのです。母も、少しずつながら車を動かそうとしていました。どれぐらいの時間が経過したのでしょうか？渋滞の車が左に寄り始めたのです。救急車のサイレンもすぐに近くまで近付いて来ていました。何とか左側に寄せ切ったところを救急車が2台私たちの車の横を通過していったのです。私は何となくほっとすることができました。それにしてもあんなに大渋滞していたのに少しずつみんなが協力し合って緊急車両を通してあげることができたなんて、と私は日本人の連係の見事さに感心させられました。一瞬にして、知らない誰かと心が一つになったのです。日常生活の中では当たり前起きてくる出来事ですが、その場面に遭遇した私には大きな感動があったのです。日々暗いニュースが報道される中、日本の素敵などところを見ることができたことがうれしかったのです。そして、顔も知らない誰かと係りし、道が開いた時には何か暖かい空気に包まれたような感じがしたのです。その出来事を私の英語の先生に話したところ「外国に行くのと、このような行動を見ることは難しいよ。日本人だから生まれたことだと思うよ。」と話していました。それを聞き、改めて日本人の優しさを実感しました。その先生からはある動画を見せていただきました。それは日本に来た外国人旅行客のインタビューの動画でした。この動画では、日本の良さを紹介する動画でした。例えば、店員さんが、礼儀正しく親切であること。日本のおもてなしが素晴らしいこと、清潔で安全であることが挙げられていました。この動画から、日本は世界にとっていいお手本のような存在であるのではないかと思うことができたのです。

今地球上では、紛争が起きている地域があります。その後の国、街はどうなるのか？いつまで続くのか。計り知ることはできません。しかし、かつての日本も戦争などで大きな影響を受けました。私は社会の授業でこれらの出来事を学び、今日の日本との大きな差を感じました。日本は戦争で大きな被害を受け、日本の多くの地域が焼け野原と化し、決して今のような安全

で清潔な町ではなかったはずですが。当時から今の日本を作り上げた日本の復興力に驚きを感じます。同じ方向を見て、同じ目的を持って進んでいくことが大切だと思うからです。このような学びをした日本だからこそ日本が各国の支えとなって行くことが大切だと考えるのです。日本の良さである「誰かのために」や「思いやり」という気持ち、そして行動を発信させていくことがいま求められているような気がします。

私は中学3年生になり、より世界の情勢や自分の将来について考えることが多くなりました。そんな中で私は誰かの役に立ちたい、助けたい、そして笑顔になってもらいたいという思いを持ち続けていこうと思っています。今後の想いや夢を実現することができるよう幅広い知識や、多様な選択肢を持つていたいと思います。今、私は世界で食糧不足に直面し、医療をまともに受けることができない子供たちを救う団体に支援をしています。世の中で苦しむ人たちのお話を聞き、今の自分の生活がどれほど恵まれているのか、この生活が当然ではないことを思い知らされました。世界中で恵まれない人々のために自分が支援できることを考え、今の生活に感謝したいと思います。日本人の良さである「思いやり」という気持ちを持ち続け世界の先頭に立って行動していきたいと思います。大きな夢ではありますがこれから自分が本気で追える夢や目標を模索していきたいと思います。いつも思いやりの心を持って。

### ● プロフィール ●

**好きなことやもの** 踊ること、野球観戦です。幼いころから東北楽天ゴールデンイーグルスの球場へ足を運び、数多くの試合を観戦してきました。そこで、東北ゴールデンエンジェルスさんのダンスを見て、チアダンスを始め、今でも踊ることが大好きです。

**苦手なことやもの** 虫と怖い話、怖い音楽です。虫を見つけると、どうすればいいのかわからなくなり、パニックになります。そして、すぐに逃げます。また、怖い話や怖い音楽をきくと、自分の周りでも、何か起こるのではないかと思い、1人で動くことができなくなります。

**将来の夢** 東北ゴールデンエンジェルスになることです。4歳から始めたチアダンスでは、技術はもちろん、人としても多くのことを学んでいます。この経験から、自分の踊りでお客さんを笑顔にし、東北を盛り上げることができる、憧れられるチアリーダーになりたいです。